



## 農園は「自然の宝庫」、「学びの宝庫」

部長 松本安博

梅雨明けが待ち遠しい季節となりました。今年も梅雨間の太陽の光を受けて、初等部の農園では、いろいろな植物がぐんぐん育っています。

私は、キャンパス内の農園が好きで、よく足を運びます。

今日は1年生と4年生が、農園で学習していました。1年生は、自分が育てているトウモロコシやオクラの観察をしていました。4年生は、教室で発芽させたヘチマをヘチマ棚の下に移植していました。どちらの学年も、先生の話聞きながら楽しそうに活動していました。その他2年生がサツマイモを、3年生がホウセンカとヒマワリを育てています。また、5年生が田植えしたイネも順調に育っています。これら生活科（1年生・2年生）や理科（3年生以上）での栽培学習は、観察や収穫、調理をして終わるのではなく、次の学習や他教科の学習へとつながっていきます。例えばヒマワリの種の数を数えたり、同じ数ずつ包装して贈り物にしたり、花が太陽の方向に向きを変えることについて調べたり、また、サツマイモで判を作ったり、そのつるで飾り物を作ったり、ヘチマとつるの巻き方を比べたり、さらにはオクラでスタンプを作ったりするなど、総合的かつ発展的に学習を広げ、深めていくことが考えられます。

農園は、街の中にありながら自然の宝庫です。鳥が歌い蝶が舞うこの場所には、いろいろな生き物がいます。自然がいっぱいです。モンシロチョウにシジミチョウ、色や形、大きさが異なるトンボも飛んでいます。目を移すと、無農薬の葉をおいしそうに食べている幼虫も見かけます。

先日、3年生の教室で、理科の学習を参観していた時のことでした。子どもたちは、農園で見つけたモンシロチョウの幼虫を観察していました。そして、「幼虫がモンシロチョウになったら、みなさんはどうしますか。」との先生の問いに、子どもたちの意見が分かれました。いつまでも育てたいとの思いと自然の中に戻してあげたいとの思いが交錯していました。私は、子どもたちのモンシロチョウを可愛がりたい、大切にしたいと思う気持ちが、意見交換を通して「モンシロチョウにとってはどうなのか。」に深化していくことを期待して、教室を後にしました。後日、授業をしていた先生にその点について尋ねたところ、どちらの意見も「モンシロチョウを大切にする思いは同じだね。」ということで、収束したとのことでした。

私は、子どもたちが自らの小さな心を揺さぶり、人であれ、動物であれ、何であれ、自分の側からだけでなく、他の側からも物事を見つめ、考え、判断する姿勢を少しずつ育てていくことを願っています。

保護者の皆様方にも、自然いっぱい、学びいっぱいの初等部の農園を、是非ご覧いただきたいと思います。



農園で学習中の4年生（左側）と1年生（右側）